

## 「横断歩道で恩送り」

八万中学校 一年 竹安 悠

私はニュースで、「信号機のない横断歩道での一時停止。最も守られている都道府県は!?」という記事を見た。それによると、一位は長野県の八十七パーセント。およそ十台に八台が止まっています。私の住む徳島県は四十四パーセントで全国三十三位の結果でした。それを知って私は、「その通りだな。」と思いました。一台目ですぐに気づいて止まってくれるときもあれば、何台も何台も見送ることもあります。片側が止まってくれていても、対向車線は止まってくれずに渡れないこともあります。その中でも、市バスや、大きなトラックの運転手さんは、いつも止まってくれるように思います。

記事には、運転手が一時停止しないわけも書かれていました。それは、歩行者が渡るか渡らないか分からないから・対向車が止まらないから・渋滞を避けるため、といった理由です。確かに「渡るか渡らないか分からない」という点は運転手側の気持ちも分かる気がします。私も渡るつもりがなくて、横断歩道の横で友達と喋っていることが何度かあります。それも私たちが気づかずに、車の人が困っていたのかと思うと、申しわけなく思います。これからは意識して気をつけたいです。そして渡りたいときは、相手に分かりやすい意思表示をしたいと思いました。横断歩道で手を挙げると、止まってくれる率が四割も上がったそうです。

長野県では、子供のころから横断歩道を渡る際に、手を挙げて意思表示をし、一時停止してくれた車におじぎをすることが教えられているそうです。自分が子供のとき、横断歩道で車が止まってくれるのを経験していること、家族と乗る車で、横断歩道で止まってあげる姿を見ていること、そして大人になって、自分が運転するようになったとき、自然と当たり前と同じ行動ができるのだと思います。そんな長野県の横断歩道を渡ってみたいです。

けれど本当は、横断歩道での一時停止は法律で決められた義務なのだそうです。そのことを知り、私は複雑な気持ちになりました。なぜなら、「止まらなければならない。」という表現がしつくりこなかったからです。小学生のころは、毎朝登校時、お母さんたちが交替で横断歩道に立って車を止めてくれました。朝のラッシュ時で、次から次へと車が来ます。黄色の旗を高く上げると、車はすぐに止まってくれました。私は、その車に頭を下げて急いで渡ります。たとえば法律で当たり前のことだとしても、止まってくれたらとても嬉しく、「ありがとう。」という気持ちになります。もしかすると、その人も何年か前に同じ道を横断していたかもしれないし、私もいつか、子供たちの登校を見守る日が来るかもしれません。そんな毎日が続くように、これからも止まってくれた車の人に感謝の気持ちで頭を下げたいと思います。